

- 問1 世界の農産物統計において、アジア州が占める割合が極めて高く、世界全体の生産量の約9割に達している農産物の組み合わせとして、最も適切なものはどれですか。（2025年 秋田県公立入試 類似）
1. 綿花と大豆 2. コーヒーとカカオ 3. 米と茶 4. 小麦とうもろこし
-
- 問2 鉄鉱石や石炭の産地と製鉄所の分布を示した統計資料において、中国の内陸部に多くの製鉄所が配置されている特徴を説明した記述として正しいものはどれですか。（2022年 大阪府公立入試 類似）
1. 海外から輸入される原料を加工するため、河川の河口付近にのみ製鉄所が集中している 2. 国内で産出される石炭や鉄鉱石の産地と重なるように製鉄所が立地している 3. 内陸部の農業地帯に肥料を供給するため、農地に近い場所に製鉄所が分散している 4. 石炭の産地から離れた、消費電力の少ない高原地域に製鉄所が集中している
-
- 問3 世界の諸地域の区分において、「中央アジア」と呼ばれる地域の位置関係を正しく説明しているものはどれですか。（2022年 岡山県公立入試 類似）
1. ユーラシア大陸の西端に位置し、東経20度よりも西側の範囲にある 2. アフリカ大陸の北東部に位置し、地中海と紅海に挟まれた範囲にある 3. 北アメリカ大陸の中央部に位置し、西経100度付近の範囲にある 4. 広大なユーラシア大陸の内陸部に位置し、経度では東経60度よりも東側の範囲にある
-
- 問4 トルコの産業と貿易の特色について、その背景を含めて説明した文として最も適切なものはどれですか。（2020年 福島県公立入試 類似）
1. アジアとヨーロッパの接点という立地を活かし、ドイツなどの欧州諸国を主要な市場として自動車や機械類を輸出している。 2. 天然ガスのパイプラインの起点として、ロシアなどの近隣諸国へエネルギー資源を供給することが貿易の柱となっている。 3. 豊富な石油資源の輸出に依存した経済構造を持っており、輸出相手国は主にアメリカや中国である。 4. 広大な乾燥帯を利用した小麦の企業的穀物農業が盛んであり、農産物が輸出額の過半数を占めている。
-
- 問5 1986年に「ドイモイ（刷新）」と呼ばれる政策を導入して市場経済化を進めたベトナムでは、2000年から2018年にかけて日系企業の進出が急速に拡大しました。この背景にある、ベトナムの経済状況と日本との関係についての説明として最も適切なものはどれですか。（2022年 鳥取県公立入試 類似）
1. 進出日本企業数が急増した理由は、ベトナムが東南アジアで最大の人口を持ち、最大の輸出相手国が日本にのみ限定されているためである。 2. 主な輸出相手国は中国とアメリカに限定されており、日本との貿易額はドイモイ政策の開始以降、減少傾向にある。 3. 一人当たりの国内総生産がすでに日本と同水準に達したため、日本企業は製造拠点としてではなく、主に高級品の販売市場として進出している。 4. 一人当たりの国内総生産がタイやマレーシアより低く、安価で豊富な労働力を求めて多くの日本企業が進出した。
-
- 問6 アジア州において、米や茶、天然ゴムといった特定の農産物の生産割合が世界全体の過半数を超え、圧倒的なシェアを誇っている主な要因について、自然環境の観点から説明したものとして適切なものはどれですか。（2025年 秋田県公立入試 類似）
1. 偏西風と暖流の影響により、年間を通じて温暖で降水量が一定であるため 2. 季節風（モンスーン）の影響により、夏に高温多湿となる地域が広く分布しているため 3. 広大な乾燥帯が広がり、日照時間が極めて長く灌漑農業に適しているため 4. 永久凍土が広がる寒冷な気候により、病害虫の発生が抑えられているため
-
- 問7 アジア州における日本の産業の関わりについて、ベトナムを事例とした近年の動向を説明したものとして、正しい記述を選びなさい。（2016年 三重県公立入試 類似）
1. ベトナムへの進出企業数は2000年代に入ってから減少に転じており、その主な原因はベトナムの平均月収が日本と同水準まで高騰したことにある。 2. ベトナムは日本にとって最大の資源供給国であるため、製造業の進出目的は現地の豊富な天然資源を日本へ輸出する拠点を作ることに限定されている。 3. 日本の製造業はベトナムの高度な技術力を活用するために進出を続けており、進出企業数は2012年時点で100社を下回っている。 4. ベトナムに進出する日系製造業の企業数は2000年から2012年にかけて約3倍に増加しており、その背景には日本と比較して現地の賃金が非常に低いという利点がある。
-
- 問8 東南アジアのインドシナ半島東部に位置するベトナム社会主義共和国では、米の粉を使った麺料理「フォー」が代表的な食文化となっています。このように、ベトナムで米を原料とする料理が広く普及している地理的背景として、最も適切な説明を選びなさい。（2015年 大分県公立入試 類似）
1. メコン川などの大河の下流に広がる平野部を中心に、高温多雨な気候を活かした稲作が盛んであるため。 2. 国土の大部分が冷涼な高原地帯であり、寒さに強い特殊な米の品種改良が古くから進んだため。 3. 年間を通して降水量が極めて少ないため、乾燥に強い穀物である米の栽培が唯一の農業手段であったため。 4. 季節風（モンスーン）の影響を全く受けない安定した気候により、年間を通じて小麦の生産が困難であったため。
-
- 問9 インドで最も多くの人々に信仰されているヒンドゥー教に関連して、その文化的な特徴や生活習慣について述べた文として、正しいものはどれですか。（2020年 岡山県公立入試 類似）
1. ラマダン（断食月）には、日中の飲食を断つ修行を行う。 2. カースト制度による差別に反対して、インドから東南アジアへと広まった。 3. 偶像崇拝が厳しく禁止されており、寺院には神像が置かれない。 4. 牛を神聖な動物として尊ぶため、牛肉を食べない習慣がある。
-
- 問10 インドにおいて人口の約8割を占める宗教の特色と、その周辺国への影響について述べた文として、最も適切なものを選択してください。（2022年 長野県公立入試 類似）
1. 多神教であり、牛を神聖な動物として大切に作る習慣があり、生活習慣や食文化に強い影響を与えている。 2. 釈迦によってインドで開かれた宗教であり、現在はインドよりもタイやミャンマーなどの東南アジアで広く信仰されている。 3. 唯一絶対の神を信仰する一神教であり、インド国内では約15%を占める第2の宗教となっている。 4. パキスタンやバングラデシュにおいて、人口の大部分が信仰している宗教と同一である。
-
- 問11 米の生産量上位10か国を見ると、中国、インド、インドネシア、バングラデシュ、ベトナムなどが並んでおり、アジア諸国がその大部分を占めています。これらの国々における米の生産と消費の実態について、正しく述べたものを選びなさい。（2018年 岩手県公立入試 類似）
1. 人口が密集し米を主食とする地域であり、生産された米の多くが生産国内で消費される自給的な農業が行われている。 2. 乾燥した気候を克服するため、大規模なスプリンクラーを用いた灌漑農業により、小麦から米への転換が進んでいる。 3. 外貨獲得を主な目的として、生産量のほとんどをヨーロッパや北アメリカへ輸出する商業的な農業が行われている。 4. 労働力不足を補うために徹底した機械化が進んでおり、広大な土地を利用して企業的な経営による大規模栽培が行われている。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 米と茶	アジア州の東部から南部にかけては季節風（モンスーン）の影響を強く受け、夏に高温多湿となるため、多量の水を必要とする稲作が非常に盛んです。また、丘陵地を利用した茶の栽培も盛んであり、米と茶はいずれもアジア州が世界生産の大部分を占めています。一方、小麦やとうもろこしは北アメリカやヨーロッパでも広く栽培されており、アジア州の占有率はこれほど高くありません。
問2	答え 2 国内で産出される石炭や鉄鉱石の産地と重なるように製鉄所が立地している	中国の内陸部における製鉄所の分布を確認すると、石炭の産地である華北や、鉄鉱石の産地である東北区などの資源分布と強く相関しています。日本の製鉄所が輸入原料に依存し臨海部に立地しているのに対し、中国では国内資源を活用するために、内陸部の原料産地に工場を置く形態が発展してきました。
問3	答え 4 広大なユーラシア大陸の内陸部に位置し、経度では東経60度よりも東側の範囲にある	中央アジアはその名称の通り、世界最大の陸地であるユーラシア大陸のほぼ中央に位置しています。海に面していない内陸部であり、位置を特定する指標である経度を確認すると、東経60度よりもさらに東側に位置していることがわかります。海から遮断されているため、乾燥した盆地や高原が広がる地理的環境を有しています。
問4	答え 1 アジアとヨーロッパの接点という立地を活かし、ドイツなどの欧州諸国を主要な市場として自動車や機械類を輸出している。	トルコは西アジアの中でも工業化が進んだ国であり、特に欧州連合（EU）諸国との関わりが深く、自動車や機械、繊維製品などを広く輸出しています。石油資源に頼る周辺の西アジア諸国（産油国）とは異なり、製造業が産業の中心となっている点が大きな特徴です。
問5	答え 4 一人当たりの国内総生産がタイやマレーシアより低く、安価で豊富な労働力を求めて多くの日本企業が進出した。	ベトナムは1986年のドイモイ政策導入により、社会主義の体制を維持しながら市場経済へと舵を切り、外資を積極的に受け入れてきました。タイやマレーシアなどの周辺国と比較すると、一人当たりの国内総生産はまだ低い段階にありますが、その分労働コストが抑えられるため、多くの日本企業が新たな生産拠点（工場）として進出を強めています。主な輸出相手国にはアメリカ、中国、日本が名を連ねており、世界的な製造拠点としての存在感を増しています。
問6	答え 2 季節風（モンスーン）の影響により、夏に高温多湿となる地域が広く分布しているため	アジア州、特に東アジア・東南アジア・南アジアでは、季節風の影響で夏に大量の降水があります。この気候特性は、生育期に高温と多量の水を必要とする米の栽培に最適です。また、天然ゴムは東南アジアの熱帯気候を、茶は温暖な傾斜地を利用して生産されており、それぞれの地域の自然条件を活かした産業構造が、世界的な高い生産シェアの背景にあります。
問7	答え 4 ベトナムに進出する日系製造業の企業数は2000年から2012年にかけて約3倍に増加しており、その背景には日本と比較して現地の賃金が非常に低いという利点がある。	統計データによると、ベトナムに進出する日系製造業の企業数は、2000年の128社から2012年には373社へと大きく伸びています。この進出を支えているのが、日本と比較して圧倒的に低い労働賃金です。平均月収の指数で見た場合、日本を100とするとベトナムは4.7という数値になっており、こうした低賃金を背景としたコスト削減が、製造業の海外展開を後押ししています。
問8	答え 1 メコン川などの大河の下流に広がる平野部を中心に、高温多雨な気候を活かした稲作が盛んであるため。	ベトナムを含む東南アジアの大陸部は、季節風（モンスーン）の影響を受ける高温多雨な気候であり、メコン川などの大河川がもたらす肥沃な平野部を利用した稲作が非常に盛んです。そのため、米を主食とするだけでなく、米の粉を加工した「フォー」や「ライスベーパー」などの多様な米食文化が発展しました。対照的に、乾燥に強いのは小麦やトウモロコシなどであり、ベトナムの自然環境とは異なります。
問9	答え 4 牛を神聖な動物として尊ぶため、牛肉を食べない習慣がある。	ヒンドゥー教徒は牛を神聖視し、その肉を食べることを避けます。これに対し、イスラム教では豚を不浄なものとして食べることを禁じています。また、ヒンドゥー教は多くの神々を信仰する多神教であり、寺院には様々な神像が祀られています。カースト制度はヒンドゥー教の前身であるバラモン教の頃から続く伝統的な社会層であり、仏教はこの制度による差別に批判的な立場で成立しました。
問10	答え 1 多神教であり、牛を神聖な動物として大切にする習慣があり、生活習慣や食文化に強い影響を与えている。	インドの多数派であるヒンドゥー教は多神教であり、牛を神聖視して牛肉を食べないといった食文化上の特徴があります。これに対し、隣国のパキスタンやバングラデシュではイスラム教が多数派となっており、宗教の違いが国家の分離独立や文化的な差異の背景となっています。なお、インド国内で約15%を占めるのはイスラム教であり、仏教はインド発祥ですが現在の信者数は限定的です。
問11	答え 1 人口が密集し米を主食とする地域であり、生産された米の多くが生産国内で消費される自給的な農業が行われている。	米の生産量上位を占めるアジア諸国は、モンスーン（季節風）の影響を受けて降水量が豊富であり、古くから稲作が盛んです。これらの地域では米を主食とする文化が根付いており、膨大な人口を養うために生産が行われています。そのため、生産量そのものは小麦に匹敵するほど多いものの、そのほとんどが国内で消費される結果、国際市場に出回る「輸出量」は限定的になるという特徴があります。